

倫理的葛藤について語り合うかたちを見つけないか？ ～臨床でも！教育でも！今日から始める倫理的感受性を高めるアプローチ～

○小倉 圭介¹⁾，葛島 慎吾²⁾，前田 愛³⁾，田代 真利子⁴⁾，高木 美歩⁶⁾，西 将希⁵⁾，
板橋 朱麻留¹⁾，井出 晶恵¹⁾，本武 敏弘⁶⁾

1) 公益財団法人 井之頭病院，2) 宮崎県立看護大学 看護学部，3) 昭和大学附属烏山病院，

4) 東京女子医科大学 看護学部，5) 帝京大学 医療技術学部 看護学科，6) 福岡女学院看護大学 看護学部

ふとした瞬間の同僚の言動に違和感を覚えることはないでしょうか？学生に看護を語る指導者のコメントに同意しにくい場面はないでしょうか？相手の価値観を否定するのは忍びないが、全面的に支持するには抵抗がある…そんな日常の倫理的葛藤について、どのように対処していますか？本ワークショップでは、そのような倫理的葛藤への働きかけについてグループワークで意見交換をし、一緒に倫理的感受性を高めることについて考えます。

倫理的感受性を高める方法の1つとして倫理カンファレンスが挙げられ、架空の事例や臨床から抽象度を上げた事例などを題材にすることがあります。その際、企画者側の意図を反映し過ぎたテーマだと、参加者は「結局はこういう正論を言えば良い」という模範解答探しになってしまいます。一方で、身近ではないテーマだと自身とは無関係のこととして捉え、内省につながらない場合もあります。このように、倫理カンファレンスはテーマ設定から慎重に行わないと、有益な時間にすることが難しくなってしまいます。さらに、カンファレンスを通して倫理的感受性を高めるためには、通常開催される「問題を解決するための話し合い」や「異なる意見を擦り合わせて落としどころを見つける話し合い」とは異なる目標設定や展開が必要になります。そのためファシリテーターは、価値観を押し付けず、話題が逸れず、安全に意見を出し合える

雰囲気を作ろうとしますが、明確なゴールのない話し合いをリードするのは非常に困難です。

倫理的感受性は、倫理原則を理解しているだけでは高まりません。倫理的に事象を見たり感じたりできる感覚、内的な自律、根気よく実践と内省を繰り返し続ける忍耐力、などの様々な要素が絡まり成熟する過程で高まるものと考えています。私たち企画者は、自身の、そして周囲の倫理的感受性を高めることについて日々悩み、模索しています。そこで、たくさんの方の取り組みや考えに触れ、新しい知見に出会えると期待してワークショップを企画しました。最初に企画者から倫理カンファレンスを開催した経験を報告し、次に現場を想起しながら倫理的葛藤への働きかけについてグループで共に考える時間を共有します。初めてこのようなワークショップに参加される方も、すでに実践を重ねている方も、それぞれの経験を語り合い皆さんと一緒に実りある時間にしていけたらと考えています。

倫理的配慮として、このワークショップの中でお話し頂いた個人情報、ワークショップの中だけで扱い、外では話さないことを最初に約束させていただきます。テーマにご関心のある方ならどなたでも、どうぞご参加ください。同じような悩みのある方、手応えのある実践をしたことがある方、倫理について語りたい方、等々たくさんの方のご参加をお待ちしています。